

## ベルギー連邦政府（Wilmès II）の成立 （2020年3月17日）について

武 居 一 正\*

### はじめに

ベルギーでは、2018年12月21日にシャルル・ミッシェル Charles Michel 内閣が連立与党の一つである新フラーモス同盟 N-VA の離脱により下院で多数派を擁しなくなり倒れたが、同内閣は国王の命により2019年5月26日の下院、欧州議会などの同一選まで「事務管理 affaires courantes」をすることになった\*<sup>1</sup>。

下院選挙後、連邦政府の連立交渉がまとまるまで事務管理を継続していたところ、首相のミッシェルがドナルド・トゥスク Donald Tusk の後任として欧州理事会議長（所謂 EU 大統領）に選出され（同年7月2日）、議長就任（同年12月1日）の準備をすることになったので、それまで財務などの担当相であったソフィー・ウィルメス Sophie Wilmès が事務管理内閣の首相職を引き継いだ（ウィルメス第 I 次内閣、同年10月27日）。ベルギーでは初めての女性首相ということでもわが国でも報道された\*<sup>2</sup>。

下院選挙後、何度もの試みにもかかわらず連立交渉は難航を極めていたが、

---

\*福岡大学法学部教授

2020年3月になって、新型コロナウイルスの感染拡大という保健危機 *crise sanitaire* に直面して、一丸となってこれに対処すべきとの認識が政界で共有され、数日の間に与野党間で話がまとまり（3月15日の10党合意）、ウィルメス内閣を維持し、職務を行わせることおよび同内閣にコロナウイルスの国際的大流行 *pandémie* とその社会・経済的影響への対処 *gestion* に限定される特別権力 *pouvoirs spéciaux* を付与することが決定された。

こうして、国王の命を受けて、ウィルメスは組閣者となり、下院の信任を得てウィルメス第Ⅱ次内閣が成立した（3月17日）。

本稿は、先ず、ウィルメス第Ⅱ次内閣が成立するまでの数日間の政界の動きを注視し、成立した内閣が憲法的には如何なる性質の内閣なのかを見極める。次に、今回付与された特別権力とは如何なるものなのかを明らかにし（資料として特別権力授權法の試訳を添えた）、最後に、今後の「国家改革（憲法改正）」を見据えた政界の動きを展望したい。

## 第1章 新型コロナウイルスの感染拡大による合意成立

下院選挙後、およそ10箇月もの間、連邦政府の連立交渉は一向にまとまらなかった。最大の原因として考えられるのは、選挙の結果フランデレンが右、ワロニーが左という左右対立が一層際立ったことである。また、伝統政党が低迷し、極右、極左や環境政党が票を伸ばしたものの、かつてのフラマン語系キリスト教社会党 CVP ような主導的多数党が存在しなくなり、連立の核となるべき政党がいなくなったことが挙げられよう<sup>\*3</sup>。更に、選挙前から排除原則 *exclusive* を採った政党が多かったことがある。ある党は特定の党とは連立を組まないと明言し、またある党は特定の党と共にでなければ連立に加わらないとの頑なな態度を取った。

実際、仏語系社会党 PS と新フラムス同盟 N-VA（フラマン語系右派）



の連立などその主張の隔たりの大きさからすればほとんど不可能だったし、また、こちらを立てれば、あちらが立たずという状況が生じた。そんな中でもあともう少しでと思われた局面もあったが、結局上手く行かなかった。いつまで経っても、どの党もその立場に固執し、妥協しようとはしなかった。

皮肉なことに、新型コロナの感染拡大という危機が迫って初めて、急遽政党間の合意が成立したのである。

例えば、イタリアでは3月8日には死者が133名に達し、その数は日に日に増加し、10日には外出制限が行われた。WHO（世界保健機関）がパンデミック宣言をした11日にベルギーでは最初の死者1名があり、感染者は314名に上った。その後の状況は、3/13入院27名、3/14入院97名、集中治療24名、人工呼吸器装着22名、3/15入院163名、集中治療33名、人工呼吸器装着23名、3/16入院252名、集中治療53名、人工呼吸器装着31名、3/17入院361名、集中治療79名、人工呼吸器装着51名と、日を追って感染者は増え続けた<sup>\*4</sup>。近隣国の例からして、ベルギーも数週間のうちに非常に困難な事態を迎えようとしていた。

また併せて、財政状況の悪化の予測も報じられていた<sup>\*5</sup>。

## 第1節 合意に至るまでの各政党の動き

以下では、政治の動きが見られ始めた3月半ばの展開を追うことにする。

3月12日木曜

この日、水面下での動きが始まった。Le Vifによれば、この日の午前中に、PS党首のマニエットが、PSとN-VAが中心となり、その他の党も加えた、完全な権限を持つ政府を作り、現在のウィルメス政府に取って代わり、そうして、コロナ危機対処の手柄を仏語系自由党MRに独り占めさせないというアイデアを思い付いていた。午後、下院内でPSの主な指導者に説明し、エリオ・ディ・ルポ Elio Di Rupo（前党首）、ルディ・ドゥモット Rudy

Demotte（フランス語共同体政府前首相）、ローレット・オンクリンクス Laurette Onkelinx（元副首相）らの支持を得た。そこで夜遅く、社会党本部で、sp.a（フラマン語系社会党）党首のコナー・ルソー Conner Rousseau を伴い N-VA 党首のバルト・ドゥ・ヴェーバー Bart De Wever と会い、議論したのである。その結果、両党が中核となる政府樹立で合意し、マニエットは3頁のメモを準備した\*<sup>6</sup>。

この動きは、5月26日以来のベルギーの政治状況を完全に覆すものであった。つまり、新型コロナウイルス危機が政治を動かすことになったのである。

3月13日金曜

政党の党首への圧力が徐々に増えつつあった。コロナ対策には「完全な権限のある政府 *gouvernement de plein exercice*」が必要なのではないかとの声が聞こえてきた。しかし、これまでの試み\*<sup>7</sup>の中で想定しうる全ての連立（N-VA を加えた連立、N-VA を排除した連立など）が成功しなかったのである。一体どんな政府の可能性があると誰もがいぶかしく思った。

最初の報道は La Libre Belgique 紙であった。「PS が、コロナ対策および経済活動維持のために N-VA と短期間統治するのを受け入れるのではないか。」\*<sup>8</sup>との記事であった。となれば、2つの共同体を代表するこの2党が中心となり、これに MR、CD&V（フラマン語系キリスト教社会党）、OpenVLD（フラマン語系自由党）、sp.a が加わる「緊急政府 *gouvernement d'urgence*」の成立が見込まれるということになろうか。Le Soir 紙は、国王の命により政府樹立を模索していた上・下両院議長ドゥワール Dewael とラリュエル Laruelle による PS に対する圧力が強まっていると報じていた\*<sup>9</sup>。しかし、他の者達は失敗したのに、ドゥワール Dewael とラリュエル Laruelle の2人は、この国を襲った新型コロナウイルス危機を切っ掛けに、成功できるのだろうかとの疑問が生じた\*<sup>10</sup>。

メディアが金曜午後に La Libre Belgique 紙の後追い報道をし始めたとい

うことは、何かが動いているのを嗅ぎつけたからに違いなかった。

ただ、PS は先月 N-VA との政府樹立を拒否したばかりで、これがクーン・ヘンス Koen Geens の辞任につながったことは皆が知っていた。PS 党员の中には N-VA 抜きの政府を望み、もう少しで成立しそうだったヴィヴァルディ連立の失敗を諦めきれない者がいた。長い間、何度も繰り返して N-VA とは組まないと公言してきたのに、今ここで PS が前言を翻せば、政治的自殺になり、選挙で直ぐ後ろに迫っているベルギー労働者党 PTB（仏語系極左）を利するだけだとの危惧があった。N-VA との緊急政府樹立もやむを得ないとの判断をする指導者（元副首相 Laurette Onkelinx など<sup>\*11</sup>）もいたので、PS 党内は割れていた。また、キリスト教民主フラームス党 CD&V 内には、指導者に対し N-VA と共に連邦政府に参加することにいつまでも拘泥するのを断念するよう求める声があった。N-VA 抜きの連立の可能性も僅かながらまだ残されていた<sup>\*12</sup>。政治の動きがあることを知った MR では、自分達が蚊帳の外に置かれているのではないかと心配する者がいた<sup>\*13</sup>。

さて、そんな中で、PS 本部では、午前中に、党内の主立った者（主な指導者に共同体および地域圏の大臣など）を集めた“G20”が開催された。党首マニエットは、上・下両院議長が、事務管理内閣を構成している3党（MR、OpenVLD、CD&V）に N-VA、sp.a および PS を加えた、6 党首を集めようとしていると切り出した。そして、彼はこれらの政党と完全な権限を持つ連邦政府樹立の交渉に入るつもりだと述べたのである。この政府は、完全な権限を有する政府が念頭に置かれてはいるが緊急的な性質のものであり、コロナ対策とこれに伴う予算措置といった特に限定された綱領を持ち、1 年程度の短期間活動するものだと付け加えた。この時初めてマニエットの考えが党内に正式に示されたのである。反応はバラバラだった。ある者は、無条件にスウェーデン連立の政党と正式に多数派を形成することを危ぶんだ。それはこれまでの党の方針と正反対の選択だからである<sup>\*14</sup>。突然の話で、多くの者

を当惑させたのは間違いなかった。前日のように、オンクリンクスとドゥモットは賛成した。ジャン-クロード・マルクール Jean-Claude Marcourt（ワロン議会前議長）は用心し、ブリュッセルの者達（ルディー・ヴェルヴォールト Rudi Vervoort（ブリュッセル首都地域圏政府首相）、アメッド・ラウジ Ahmed Laaouej（下院会派代表）、フィリップ・クローズ Philippe Close（ブリュッセル市長）など）はかなり躊躇したが、誰も正式には反対しなかった<sup>\*15</sup>。マニエットは承認を得られたと考えた。だが、午後になってリエージュでは、党首に反対の動きが始まろうとしていた。

3月14日土曜

La Libre Belgique 紙の前日の情報が確認された。ワロニーの社会党 PS とフランデレンのナショナリスト N-VA は完全な権限を有する新たな政府を組織する準備をしていたのである<sup>\*16</sup>。

PS は、日曜午前中に緊急会議を開き、政府与党に加わる選択について正式に決定することになった。マニエットは党内手続きを進めていた。

お昼に、N-VA 党首のバルト・ドゥ・ヴェーバー Bart De Wever が、VTM Nieuws（フラマン語系民放）で緊急政府を1年間設けることを説いた<sup>\*17</sup>のは、木曜の合意を念頭に置いて PS の背中を押すためであった。フラマン語系社会党 sp.a 党首のコナー・ルソー Conner Rousseau も、「今日何も動かなければ、月曜に何も起こらないことになる。それは承服しがたい。」とツイートして、賛意を表明していた<sup>\*18</sup>。仏語系環境政党 Ecolo の共同代表であるジャン-マルク・ノレ Jean-Marc Nollet も「団結は力なり。週末の間に、国家的団結 l'unité nationale に応える諸政党間で土台が整えられれば、月曜に政府樹立の段階に至るのは時宜を得ている。」と述べてはいた<sup>\*19</sup>。

PS 党首のポール・マニエットは、G20の同意を得てその計画を進め始めたが、そこには問題があった。やはり PS 党内には N-VA との連立に多くの反対やためらいがあったし、連立を組むべきその他の政党と接触はしていた

ものの、正式な話し合いは実際には始まっていなかった。両院議長は月曜に国王に対し最終報告をすることになっていたから、急がねばならなかった。

例えば、MR は、緊急政府には不安定な要素が残るので、立法期を全うできる安定して将来性のある政府を望んでいた。また、同党のウィルメスを首相に留まらせたいとも考えていた。もし緊急政府の話が進むと、他党(N-VA や PS) が首相ポストを要求することになるやも知れないと心配していた。MR は、PS と金曜に数時間この状況について議論し、新型コロナ対策以外の安全や税制などもっと広いテーマについても話し合っていた<sup>\*20</sup>。

他方、フラマン語系環境政党 Groen のクリストフ・カルヴォ Kristof Calvo は、新型コロナ対策に十分な手段を与えるために、翌週下院本会議で採択されることになっている暫定予算 *douzièmes provisoires* に緊急予算 *budget d'urgence* を組み込むことを説いていた。「このような危機では、連邦政府樹立のための交渉とは別に、政党の垣根を越えて統一を示すことが重要だ。」とした<sup>\*21</sup>。丁度、下院では、4月から6月までの3箇月分の暫定予算の審議の最中であり、数多くの修正案が出されたため月曜に委員会審議を行うことになっていた。

夜になって、PS は「緊急時においては、全ての政治的責任を負う者は、まず第一に市民の健康を優先すべきである。嵐の最中に船長を交代させるのは無責任である。」とのコメントを党の公式ツイッターに載せ、N-VA と緊急政府樹立の議論をしてはいるが、合意に至った場合にも、取り沙汰されているような首相交代には反対との意思を明確にした<sup>\*22</sup>。その理由として、1 つには、長年の政敵に首相ポストを与える気はさらさらないということ、2 つには、いつもは批判の対象である MR だが、ウィルメス首相の出身母体である MR を多数派形成のために自分の側に引き留めておきたいとの思惑があること、3 つには、新たな政府の交渉を始めて、樹立し、その構成を決めるまでには時間が掛かるから、緊急時に無駄にする時間など無いこと、が

挙げられよう。これは、つまり、現在の事務管理内閣の存在をベースに考えることになるとの基本的立場を示したものであった。

夜遅く22時53分に、Le Soir 紙が、PS、sp.a、N-VA、MR、OpenVLD、CD & V の6党が会議をしていると報じた<sup>\*23</sup>。恐らく、連邦政府樹立のための決定的な交渉になるものと思われた。RTL info（仏語系民放TV）は、真夜中になっても、土曜の夜に始まった会議が続いており、いくつかの政党が連邦政府樹立のために何時間も交渉するのは去年の5月26日の選挙以来初めてのことだと伝えた<sup>\*24</sup>。

この夜、PSでは、抵抗の動きが激しくなっていた。党青年部や下部組織が活発に反対運動をし始めた。労組FGTBは怒っていた。ある者は、「環境政党との国家的団結なら同意するが、この豹変は受け入れられない。」とした<sup>\*25</sup>。こうして、マニエットにとっては散々な夜となり、様々なレベルの同志から非難の山が届くことになった<sup>\*26</sup>。

3月15日日曜

その後、6党は朝2時まで交渉したが、最終合意には至らなかったとの報道があった<sup>\*27</sup>。議題は、正に6党を糾合して完全な権限を有する政府を作ることだった。

交渉は日曜午後に再開されることになったと両院議長の側近が確認した<sup>\*28</sup>。

夜が明けて、PSは、進行中の連邦政府樹立に関する議論に特化した党事務局の会合が11時にWeb会議で開かれると確認した<sup>\*29</sup>。マニエットは、思いの外の反対の多さに意見を変えていた。予定の時間より20分ばかり遅れて、彼は、「PSは野党の席から現在の政府を支持する。」と党員に伝えた。そして、コミュニケの準備を始めた<sup>\*30</sup>。

RTLの正午の番組“C'est pas tous les jours dimanche”にFacetimeを通じて出演したPS党首のマニエットは、緊急対処のためにN-VAと政府を短期間樹立する選択肢をきっぱりと拒否した。彼は、「今は新たな政府を樹立

する時ではない。我々は大変な危機の最中にある。唯一の優先課題、それはコロナウイルスを特定して、人々の治療をすることである。」「我々は、（コロナ危機に対処する）事務管理内閣を外から（国会で野党の席から）支持する。」と述べ、「今は、国が課題を処理する能力を示す様々な措置を取るための国家的団結の時である。」とした。続けて、N-VA が「その政治目的のために重大な危機を利用しようとした。」と非難した<sup>\*31</sup>。彼によれば、N-VA が、危機の最中に、首相を交代させ、国家改革に取り掛かろうとし、事務管理内閣を支持するのを拒否しようとしたこと、が理由である<sup>\*32</sup>。以上のように、マニエットはその雄弁の才を発揮した。3日の間考えてきた事とは真逆をずっと確信を持っていたかのように語ったのである。

同番組に出演していた Ecolo の共同代表ノレは、Ecolo も事務管理内閣を支持すると述べた。MR 党首ブッシュェは、危機に際して国家的団結を主張する PS と Ecolo の判断を喜び、彼もまた国の利益が党のそれに勝るとした<sup>\*33</sup>。これに対して、フラマン政府首班 ministre-président flamand のヤン・ヤンボン Jan Jambon (N-VA) は、フラマン語系公共放送である VRT の番組 De Zevende dag で、「あなた方は私が怒っているのをほとんど見たことがないでしょうが、私は怒っています。…国の最大政党が、少なくとも危機に対処するための連立を組むことを提案しているのです。これこそ人々が政治家するように求めていることです。それなのに、あなた方は PS 党首が彼の党が N-VA との政府を望んでいないと言っているゲームに加えられてしまっているのです。」<sup>\*34</sup>と苛立ちを抑えきれずに語った。「我々は、任務の数が限られ、その枠内に限定された、大臣構成も数が限られた、完全な権限を有する政府を望んでいます。我々は国の最大政党です。一体どんな権利から仏語話者達は我々に命令 ukases をするのでしょうか。」と語った<sup>\*35</sup>。これに続けて、「我々は昨日話し合いました。今日話を続けることになっています。合意できることを願っています。」と述べた<sup>\*36</sup>。

思うに、N-VA は、この時には、事務管理内閣ではコロナ危機に有効に対処し得ないと考えていたのであろう。確かに、事務管理内閣の権限がどこまで及ぶのかという憲法上の問題について見解の相違が存在していたから、N-VA は一概に間違っているとは言えない。

N-VA が怒るのも無理はない。マニエットは、12日木曜にドゥ・ヴェーバーと話し合っ、PS と N-VA が一緒に政府を作ることに同意していて、これに基づいて土曜の夜にも 6 党で真剣な議論をしたからである。この努力が PS によって一方的にひっくり返されてしまったのである。N-VA に取ってみれば、PS は不誠実そのものである。

とは言うものの、この時点で、仏語系諸政党の考えの方向性と N-VA の孤立が明らかになっていた<sup>\*37</sup>。

14時に、国王から任務を授けられた両院議長ドゥワールとラリュエルの主宰で、6 党党首は下院議長室に集まった。

到着時にマニエットは、「新たに大臣を任命するような時ではない。木曜から、我々は連邦政府が地域圏のそれととても良く協働するのを見てきた。大事なのは、必要な措置を取ることである。」とその立場を説明した。MR 党首のブッシュは、他党に連邦政府に働ける手段を与えるよう求め、「ベストは、国会の多数派を擁することだ。」と述べた。緊急時は、「時間の掛かる政府形成のプロセスの泥沼にはまらないことだ。内閣の人事をすれば、1 箇月は掛かってしまう。」と付け加えた。CD&V 党首のクーンスは、コメントしようとせず、N-VA と OpenVLD の党首はメディアの前に姿を見せなかった<sup>\*38</sup>。

フラマン語系社会党 sp.a 党首のルソーはかなり憤慨していた<sup>\*39</sup>。と言うのは、12日木曜夜、PS 本部で PS 党首のマニエットと N-VA 党首のドゥ・ヴェーバーはこっそり会っていたのだが、2 人きりではなく、ルソーが立ち会っていたからである。ルソーは、仏語系とフラマン語系の最大政党が手



携える以外に途はないと考え、随分前から両党の間を取り持とうとしていた。その結果、この秘密の会合で、両者の間には「紳士協定」が成立した。コロナ危機とその経済への悪影響に対応するために緊急政府を、一年間、設けるというものであった<sup>\*40</sup>。にもかかわらず、彼の同志マニエットは、予めルソーに連絡や相談もせず、この紳士協定破棄を発表してしまったのである。彼はそれをRTLのニュースで知ることになった<sup>\*41</sup>。

14時に始まった会議は長く続き、21時半頃、環境政党 écologistes（Ecolo、Groen）と仏語系民主人道主義センター cdh が加わえられていることが報道された<sup>\*42</sup>。

23時少し前、両院議長のドゥワールとラリュエルが記者会見を開き、現在の連邦政府に対し下院多数派が支持をするという「10党合意」が成立したと伝えた<sup>\*43</sup>。10党とは、現在の連立3党 MR、OpenVLD、CD&V に、野党7党 N-VA、PS、sp.a、Ecolo、Groen、cdH、Défi（仏語系地域主義政党）を加えたものをいう。この合意は、下院では少数与党しか擁しない現在の連邦政府に対し多数派の支持を与え、6箇月間特別権力を行使できるようにするものである。

上院議長のラリュエルは、「これらの党により今日決定されたことは、それは明日国王に我々の任務の報告をし、国王が首相を組閣者に任命することである。彼女（ソフィー・ウィルメス現首相）は民主的な10党と共に宣言を起草する任務を与えられ、彼女は国会で10党の支持を獲得する。事務管理内閣から、完全な権限を有する内閣へと移行することになる。これは制限された綱領を持つ政府である。今日緊急を要するのは、コロナウイルスと戦うことである。ウイルスに感染した我が領土にいる各人が適切な措置を受けるよう監督することである。…政府が望むなら、諸政党は政府に特別権力を付与すると約束する。」<sup>\*44</sup>と述べた。

ラリュエルによれば、同意した政党間で最初の評価が3箇月後に行われる。

3箇月の補足的な合意の延長が可能である。諸政党がこの政府に与えるのは白紙小切手ではない。採られる措置について諮問を受けることを望んでいる<sup>\*45</sup>。

下院議長のドゥワールは、ウィルメス政府が先ず下院で信任を得なければならないこと、特別権力を望むことができるのはその次の段階と付け加えた。更に、政府はMR、OpenVLD、CD&Vの3党により構成され続けること、合意に加わったその他の党はウィルメス政府を国会の議席から支持すること（閣外協力）、つまり閣僚は出さないこと、が精確にされた<sup>\*46</sup>。

こうして、現在の連邦政府が多数の支持を得、最大6箇月間特別権力を行使できると明らかにされた。そして、ウィルメスは月曜に組閣者に任じられ、その政府は完全な権限を有するものの、コロナウイルスに対する戦いと世界的な大流行の社会・経済的影響への対処にその任務を限定された<sup>\*47</sup>。

波乱に富んだ長い1日であった。合意までかなりの時間が掛かったのは、基本的には樹立すべき政府についてPSとN-VAの考え方に違いが生じ、駆け引きが行われたことおよび閣外協力する野党の政府への関わり方について議論があったことによる。N-VAは、同党とPSを中心とする完全な権限を有する政府の樹立を考えていたが（完全な権限を持てば、コロナ対策以外の課題、移民受入や原子力発電、制度改革など、についても権限が及ぶことになる）、PSは、マニエット党首が一旦同意はしていたものの、党内の反対派の突き上げから方向転換し、現在の事務管理内閣を閣外協力で支持することを決めたからである。思いも掛けぬPSの豹変により、場の雰囲気は冷え切った。ここでドウ・ヴェーバーが反撃した。「私の党は政府に入る用意がある。」と言い始めたのである。つまり、ウィルメス政府支持を受け入れ、大臣ポストを要求するというのである。これが他党に受け入れられれば、2018年12月に倒れた「スウェーデン連立」が復活することになる。長い間批判してきた中道右派スウェーデン連立を、この場になって左翼のPSや環境政党が支持

せざるを得なくなるという、意表を突く巧妙な作戦だった。CD&V は元々 N-VA と共に政権に就くことを望んでいたから、直ぐに賛成した。しかし、マニエットが強く反対した。皆が今はウイルスに早急に対処すべき時だと考えているので、ここは争うべきではないとドゥ・ヴェーバーは提案を引っ込めた。こうして、ウィルメス政府への支持がまとまり、ウイルスとの戦いに「国家的団結」が成立した<sup>\*48</sup>。

これに依って、ウィルメスは、「政府の構成員は、今夜の合意が付与する大きな責任を自覚しています。課された義務の意味が我々を奮い立たせています。全てのベルギー人の利益のために働く意欲もまた同様です。この偉大な団結は現在の課題を解決するに至るものと思います。」とその抱負をツイートした<sup>\*49</sup>。

## 第2節 合意内容の確認<sup>\*50</sup>

このように10党は合意し、選挙後9箇月半の後に政治的行き詰まりを一応解消し得たが、「複雑な解決策」を採用することになった。内容をまとめると、すなわち、

3党から成るウィルメス内閣は存在し続ける。唯一コロナウイルスに対する戦いの枠内においてのみ、従ってこのために取られる全ての措置について、他の7党（極左のPTBと極右のVlaams Belangを除く）によって支持を受ける。これらの政党は下院で政府に信任を与える。加えて、政府に「特別権力」を行使する権限を付与する。これは国王のアレテにより、国会を経ることなく、拘束力のある措置を緊急に定めることができる権限をいう。この特別権力は、3箇月間有効だが、一度だけ延長可能で、最大6箇月に及ぶ。

この枠内で取られる全ての対コロナウイルス措置については、7党は外から政府を支持する。つまり、ウィルメス内閣には入閣しないが、Kernと呼ばれる関係閣僚会議では議論に参加する。そこでは、7党は当然意見を述べ

ることができる。

(1) 疑問の発生

この合意は込み入って分かりにくいものであった。直ぐにいくつかの疑問が生じた。

a) 16日月曜にウィルメスは国王から組閣者に任命されることになった。ここに、彼女は「どんな政府の組閣者なのか？」との疑問が生じる。なぜなら、彼女の少数内閣は7党の支持により存在し続けることになったのではなかったか。何故、新たに組閣しなければならないのだろうか。

回答、特別権力を付与するには、完全な権限を有する政府 *gouvernement de plein exercice* が必要だと考えられているから。

ウィルメス内閣は、3党が与党の少数内閣であることに変わらないが、内閣としては完全な権限を有することになる。つまり、事務管理内閣では無くなるのである。そして、閣外協力により専らコロナウイルスとの戦いに関して最大6箇月の間国会で7党の支持を得るのである。

b) 10党がコロナ対策でまとまることができるのなら、「何故、10党で組閣しないのか？」という疑問が当然生じる。

回答、つまり、「N-VA と組むのか、それとも N-VA 抜きでやるのか」という、言わば下院選以来の“永遠の問題”にけりが付いた訳ではないから。

それでも、政見や政策で対立し、互いの信頼関係がない中でも、とにかく最大6箇月共に働くことになったのだから、何かが変化することがなくはない。いずれにしろ、互いに知り合い、話を交わすことは、人間関係にはプラスに作用するであろう。

c) 根源的な問い、何についての合意だったのか？

翌朝、N-VA 党首のドウ・ヴェーバーが、「事務管理内閣が仕事を続けることになった。…我々は今世紀最大の大変な危機に直面していて、恐らく景気後退になろうとしている。まともな国ならどこでも、二大政党が政権に就

き、互いに5名ずつの大臣を出し、対処する。これをPSが敢えてせず、EcoloとcdHが追随した。」とRadio 1（VRT）の番組Ochtendで批判した。彼は、「何故特別権力が必要なのか？それが分かりません。国会が集会できないのなら別ですが。…今日の午後の会議に誰かを送って、党首達が政府が既に持っている権限に更なる何かを与えようとするのかどうか文章を検討させます。」と続けた<sup>\*51</sup>。

これは特別権力付与の必要性に疑問を投げかけていると理解して良からう。

ここで憲法上の整理をしておこう。事務管理内閣の権限の範囲に関する通説的理解<sup>\*52</sup>によれば、事務管理には、①完全な権限を持つ内閣の時に開始された活動を継続し、完成させる役務、②日々の国家の行政活動の維持・管理という役務、③緊急時の対応、国家や国民を重大な危機にさらす場合の対処措置、が含まれる。とすれば、事務管理内閣は当然その職務として緊急時対応をなし得るので、更に緊急時のために特別権力を付与するには及ばないということになる（尤も、N-VAはこのように議論を立てていた訳ではないが）。

次に、憲法的には、下院の信任がない事務管理内閣に特別権力を付与することはできないとする議論が当然出てくる。民主的正統性の問題が生じるからである。これに対して、sp.a元党首のヴァンドゥ・ラノット教授（憲法、UGent）が、「事務管理中の内閣は、国会がすることが出来るということを行うことができる。これは国会が委任する場合である。」<sup>\*53</sup>と述べたように、事務管理中の執行権が特別権力を授権されるのは全く問題ないとする考えもくはない<sup>\*54</sup>。

思うに、事務管理内閣は、既に辞職した内閣であり、現在のウィルメス内閣について言えば国会に支持する多数派がいない（この点で民主的正統性に欠ける）。辞職した内閣をもう一度不信任することはできないから、この内閣を国会が統制する術はもはやないことになる。民主的コントロールが及ばない点を重視すれば、そのような内閣に重要な権限を付与するなどあり得な

いということになる。また、民主的正統性のない内閣が、特別権力によって一時的にもせよ国会に取って代わるなど、我々の民主主義社会ではとんでもないということになる。国会が委任すれば、何でも許されるかのように考えるのは誤りで、立憲主義からすると、国会の多数派にもできないことがあると考えなければならない。と考えれば、事務管理内閣への特別権力付与は憲法的には不可能と言うほかない。

下院では、「政府に王のアレテで法律を変更することを許す特別権力の付与は、政府が国会の信任を得ていることを前提とする。」との穏当な考えをする者がいた<sup>\*55</sup>。多くの党が特別権力付与の前に内閣への信任が必要だとしたのには理由があった。

ところで、N-VA と sp.a は、「我々は特別権力について同意したのである。我々にとってそれが論理的なのは、ウイルスのせいで国会が集会できなくなるかも知れないことに鑑みたからである。しかし、我々は信任投票することを約束していない。」とも主張していた<sup>\*56</sup>。

ここには、政治的な思惑も見え隠れしていた。信任投票の影響は大きいからである。N-VA はウィルメス内閣とは別の内閣を作ろうとしていたから、信任投票があれば、後になって政府を変更するのがより困難になる。コロナ騒ぎが終わった後、政府を倒すには下院で過半数を擁しなければならないが（憲法46条）、信任されていなければ、事務管理内閣のままでいるウィルメス第Ⅱ次内閣（与党は150議席中38議席）に取って代わるには相対多数で何とかなりそうだという判断があったと思われる<sup>\*57</sup>。

一連の N-VA の主張を「法的な屁理屈」と断じた者もいた<sup>\*58</sup>が、そこには上述したような憲法問題<sup>\*59</sup>が横たわっていた。

17時30分に、首相、副首相に加えて日曜に合意した各党党首または代表が、首相官邸 Lambermont で特別権力の範囲や政府と各党の協力のあり方を定めるための会議をもった。合意の対象の理解に相違があるとする N-VA ら

の主張を容れる政党はなかった。上院議長ラリュエルは、「つまらない政治的駆け引き」に怒っていた<sup>\*60</sup>。

21時半少し前に会議は終わった。その結果、10党のうち N-VA だけが政府の信任をしないことになった。N-VA は、頑な過ぎて、益々孤立する羽目になった。

さて、1日も経たずして、10党合意から1党が漏れることにはなったが、残った9党は憲法的には正しい判断をした。信任投票をして、少数内閣ではあっても、完全な権限を持つ内閣とし、これに特別権力を付与することにしたからである。

かくして、ベルギーには遂に完全な権限を持つ少数内閣が成立することになった。

## 第2章 ウィルメス第Ⅱ次内閣成立

### 第1節 組閣者から首相へ

#### a) 組閣者

16日月曜日、10時過ぎに上・下両院議長は国王と謁見し、最終報告をした。辞職した政府は、緊急問題の処理をなし得るだけの国会で十分な支持を得ているとの内容であった。国王は彼らの成し遂げた仕事を慰労し、その任を解いた。その後ソフィー・ウィルメスを引見し、組閣をする任務を与え、ウィルメスはこれを受諾した（正午の王宮のコミュニケ）<sup>\*61</sup>。

彼女は、「組閣者 formatrice」となり、火曜に組閣を行い、全ての大臣が国王の前で宣誓し、同日午後、下院で信任を求めるための「政府宣言」演説をすることになった。ここで政府の活動領域（コロナ対策とその社会・経済的影響への対処）について説明することが予定された。次いで、水曜に宣言についての審議が行われ、木曜に信任投票が行われることが予定された（憲

法46条Ⅱ項)。日曜夜の合意により相当数の支持を得ることが予測された。

この日、下院財政委員会では、コロナ対策のための予算10億ユーロをも計上した暫定予算案が採択された。

b) 宣誓

17日火曜日午前、首相ウィルメスが国王の前で宣誓し、続いて閣僚達が同様に国王の前で宣誓した。これまでの内閣の閣僚全員をそのまま新たな閣僚として任命した。全閣僚数13名（男性9名、女性4名）で、その構成はMR 7名、OpenVLD 3名、CD&V 3名であった。国会で信任されれば、完全な権限を持つ内閣となるが、その活動領域と活動期間は限定され、コロナ対策とその社会・経済的影響への対処以外の領域では、事務管理内閣として活動することとされた<sup>\*62</sup>。

c) 政府宣言演説

新首相は、同日14時15分から、下院本会議で「政府宣言（施政方針）」演説を行い、その最優先課題である前例のない危機に対処するために国会と協力して全力を尽くすと明快に述べた<sup>\*63</sup>。ウイルス感染防止のため議場には政府側の3名の副首相に加え10名の会派代表のみが出席した。その他の議員達はTV中継で演説を聴いた。

首相は、演説の中で、「偉大な団結 *grande union*」との表現でコロナ対策に結集した政党を讃え、「皆で一緒に、この数ヶ月の間私達がその中で迷い続けた非生産的なイデオロギー争いを乗り越えていくことをこれから毎日証明しなければならない。」と述べた。

憲法46条Ⅱ項により、信任投票は信任案の提出から48時間後にしか行われないため、信任投票は木曜に予定された。木曜の政府宣言についての審議も同様に会派代表のみの出席で行われる。各10分間の発言時間が認められる。午後の投票は、指名による投票になるが、議員達はいくつかの部屋に分かれて投票を行うこととされ、ここでも感染防止措置が取られることになった。



特別権力授権法の採択は、早くとも翌週以降になるものと思われた<sup>\*64</sup>。

この日、新首相は国家安全会議 Conseil national de Sécurité（CNS）を開催し、コロナウイルスと戦うための新たな制限措置を定めた。ほとんど完全な隔離措置は水曜正午から4月5日まで行われることになった。国民はなるべく在宅し、親しい家族以外の者とは接触しないようにする。企業はその規模にかかわらず、在宅勤務に切り替える。などである<sup>\*65</sup>。

#### d) 信任投票

19日木曜、午前中に、ほとんど誰もいない議場で審議が行われた。各発言後、係が演壇とマイクを消毒した。怒りの収まらないN-VAは、政府が「コロナ独裁」になると激しく非難したが、議場では、環境政党の代表のクリストフ・カルヴォが「コロナは、左右の問題でも、どんな連立かの問題でもない。これは生きるか死ぬかの問題なのだ。」と述べたように<sup>\*66</sup>、連帯して事に当たるべきだとの意見が支配していた。

14時半から、感染防止のために信任投票はとても変わったやり方で行われた。本会議場を含む3つの部屋に分かれて、指名による投票用紙を用いる方法で行われた。指名によるのは定足数を確認するためであった。姓の頭文字AからKの議員は本会議場で、LからSはJacques Brel 委員会室で、TからZはPère Damien 委員会室で、それぞれ投票した。150名の議員のうち、22名が欠席し、128名が投票した。賛成票84、反対44、棄権なしであった<sup>\*67</sup>。賛成は合意に残った9党の議員に無所属1、反対は3党（N-VA、Vlaams Belang、PTB-PVDA）に無所属1であった。

こうして、ウィルメスは、信任を得て<sup>\*68</sup>、辞職した内閣の首相から法的には完全な権限（コロナ対策に限定されてはいるが）を持つ内閣の首相、言わば“本当の首相”になった<sup>\*69</sup>。ミッシェル内閣が倒れてから456日後のことであった（ベルギー政治史上2番目の長さ）。

この後、本会議場では、4月から6月までの3箇月分の暫定予算 les dou-

zièmes provisoires が可決された(賛成多数、反対 1 票、棄権 Vlaams Belang)。Covid-19との戦いの財政的基盤が整えられた。

## 第 2 節 ソフィー・ウィルメスとは

ベルギー建国以来初めての女性首相となったソフィー・ウィルメスは、1975年1月15日生まれの45歳。IHECS（社会コミュニケーション高等研究所）の広告学科で応用コミュニケーション学士号を取った後、EU 委員会の財務部門で働いた。この間に ISC Saint-Louis（聖王ルイ商業高等研究所）の夜学で財務管理学士号を取った。その後、弁護士事務所で経済・財政カウンセラーとして働いた。政治的経歴は、ブリュッセル郊外の Rhode-Saint-Genèse で助役に選出され、コミューンの財政を担ったのが最初で、その後、州議会議員、下院議員、MR のブリュッセル周辺地区委員長を歴任し、2015年に連邦政府閣僚となり、予算・公職を担当し、2019年10月27日ミッシェルの代わりに首相職に就いた。財務に精通した政治家である。私生活では、オーストラリア人の夫との間に 3 人の子供がある<sup>\*70</sup>。

## 第 3 章 特別権力

### 第 1 節 特別権力 pouvoirs spéciaux とは

CRISP の定義<sup>\*71</sup>によると、「政府の権限の一時的拡大を指し、危機的状態に対処するために、授権法に定められた一定数の領域で、政府に対し、法的規定を単独で修正または制定することを認めること。」をいう。

特別権力と呼ばれるテクニックは、執行権に対し通常なら立法権により行使される権限を委ねることである。つまり、特別権力により、執行権は、限定された期間、本来なら国会で審議され可決されねばならない法的規定を国王のアレテ arrêtés royaux で定めることができる。

連邦では、特別権力授権法の制定により、下院は、国王（実際は連邦政府）に対し、特定された一定数の目的を達成するために、既存の立法を廃止 *ab-roger* し、補足 *compléter* し、改正 *modifier* し、代替 *remplacer* する権限を受けることができる。この点につき政府は裁量権を持つことになる。この授権に基づき政府により定められたアレテは、立法のレヴェルの規範ではない。それらは、閣議で審議・決定され、コンセイユ・デタ立法部（法制局）の意見を求めねばならないこととされている。

授権法は、執行権に与えられる授権の範囲と期間を限定しなければならない。この期間の満了後、一般的には、授権法において、立法権が執行権により取られた措置を定められた期間内に追認することが規定される。国王のアレテにより定められた規定は、この追認後、法律と同じ効力を持つことになる。

ベルギーでは、経済危機（例・1926年）と保健危機（例・2009年のインフルエンザA（H1N1）流行）の場合に用いられたことがある。

その目的は、「効率」と「迅速」である。通常の立法手続きにはある程度の時間が掛かかるから、緊急事態において政府に迅速な対処を認めるためである。有効な手を直ちに打たねばならないからである。

## 第2節 合意から分かる特別権力授権法の内容

では、今回の事例について見てみよう。

ベルギーの今の状況はかなり特殊だと言って良い。何故なら、政府は2018年12月以来事務管理中である。政府は国会の信任がないので、その権限が制限されている。そこで、既に見たように、より民主的な選択肢として、国会が信任する完全な権限を有する政府を樹立し、これに特別権力を授権することになったのである。

実を言うと、特別権力なるものは憲法の中に明定されていない。憲法105

条に、「国王は、…憲法自体に基づき定められた個別の法律が正式に付与する以外の権限を有しない。」との規定があるので、特別権力授權法が定められなくてはならないのである。ここに授權法の根拠がある。

授權法は、執行権に対し大変重要な行動の幅を提供する。授權法で特定された事項について法律を廃止し、改正し、補い、代替することができるからである。危機的な例外的状況において、本来の立法手続きを経ずに、効率的かつ迅速にコロナ危機のような緊急事態に対処するためである。

これまで見てきたところから、授權法は5つの条件を満たさなければならない。①授權を許す「例外的状況」の存在すること、②「授權期間」は例外的状況の期間に対応すること、③「授權事項」が精確に限定されていること、④「授權の目的」が明らかにされていること、⑤政府が取ることのできる「措置の範囲」が精確に述べられていること、である。

今回授權期間は3箇月で、1回に限り更新できる。権限の領域は保健危機に厳格に限定されている。

政党が関与でき、国会が行使できる「民主的統制手段」が定められている。特別権力による措置を取るとき（国王のアレテを定めるとき）には、関係閣僚会議 kern で決定することになっているが、ここに閣外協力政党の代表が出席することになっている。今回特別権力行使について閣外協力する7党は、十分に意見を述べることができる。また、授權期間満了後、国会の追認が必要である。追認されれば、国王のアレテは法律の効力を持ち、適用され続けることになる。追認されなければ、法的効力を失う（無効）。

加えて、国会はいつでも政府の不信任投票をすることができる。実際のところ、ウィルメス内閣は少数内閣で、与党は150議席中の38議席のみだから、不信任は簡単にできそうである<sup>\*72</sup>。

こうしてみると、特別権力付与は、決してウィルメス内閣に対して「白紙小切手」を渡すようなものでないことが明らかである。十分な粹付けまたは

歯止めがあると評価できる<sup>\*73</sup>。

因みに、もし仮に国王のアレテが個人の人権を侵害するようなことがあれば、当該個人は、コンセイユ・デタ訴訟部に対し、アレテの取り消し、緊急時には執行停止、の訴えを当然提起できる。

### 第3節 授権法制定の経緯

3月21日土曜 関係閣僚会議と10党党首は授権法案に合意し、下院に提出した<sup>\*74</sup>。首相官房の情報によれば、法案は月曜から下院で審議に入り、コンセイユ・デタに意見を求めることになるとのことであった<sup>\*75</sup>。また、特別権力授権期間中、政府と国会との一層の協力を図るために、国王のアレテは、官報に登載される前に下院に通知されること、および政府は国会議員に対して定期的に状況報告すること、加えて毎週土曜午前中に関係閣僚会議と10党党首の会合を持つこと、週2回情報交換が行われること、が土曜に決定されたとの発表があった<sup>\*76</sup>。

3月23日月曜 下院議長が、コンセイユ・デタ立法部に対し、コロナウイルス Covid-19に対する戦いの措置を取ることを国王に授権する法律案について、急いで意見を述べるよう求めた<sup>\*77</sup>。首相官房は、コンセイユ・デタの意見は水曜にも出されるであろうこと、木曜午前中に下院内務委員会で法案を審議し、午後にも本会議にかける予定であること、下院の党派代表は月曜に既に正式に法案の検討に入ったこと、を発表した<sup>\*78</sup>。

法案の帰趨については、党派代表10名の署名があるので、心配がなかった。反対しているのは、PTB と Vlaams Belang だけだからである<sup>\*79</sup>。

3月24日火曜 コンセイユ・デタ立法部総会 *assemblée générale* が、法案を検討した。

3月25日水曜 コンセイユ・デタ立法部の意見が夕方出された<sup>\*80</sup>。コンセイユ・デタは、総論部分（pp. 5-14）で、特別権力授権法が内容とすべき要

素（授權の明確性、期間の限定など）を挙げて、法案が基本的にそれらを満たしていると確認した後で、人権制約を目的とする規定はないが、定められるアレテがそのような内容を持つことが排除され得ないから、アレテの準備の際に、人権を保障する上位規範に照らして許されるかどうかを慎重に検討するように求めた。そして、いくつかの規定をもっと精確にするよう修正を求めたり、法文の具体的な修正の提案などをした（pp. 14-21）。

憲法78条に基づき選択的両院制 *bicaméralisme optionnel*<sup>\*81</sup>の手続きに属する事項は、上院もまた審議することができるべきだとの指摘に従い、法案は下院のみで審議・可決する部分と、上院でも審議し二院制の手続きに従い制定される部分の2つに分割され（Avis n°.9.2.2, p.13）、再提出<sup>\*82</sup>されることになった。

3月26日木曜 こうして、下院での可決だけでは立法作業を終えることができなくなった。下院内務委員会は、コンセイユ・デタの意見に従って、いくつかの修正案を採択した上で、授權法案を可決した<sup>\*83</sup>。

上院も、下院本会議で可決後、特別権力授權法案を17時30分から審議することになった。それは時間を無駄にせず、授權法の発効をできるだけ急ぐためであった。上院が法案の移送後直ぐに審議・可決しないと、15日の審議請求満了期間を待たねばならなくなる（憲法78条 § 2 I 項）。上院では本会議で法案を修正する余地がないと決定し、直ちに国王の親署に付して、官報に登載し、発効させることにしたと上院がコミュニケを発表した。上院の会派代表もこの手続きに賛成し、上院議員の過半数の出席を求めることなく、起立採決が行われることになった<sup>\*84</sup>。

しかし、その後、上院は本会議開催を金曜10時からに延期することを決めた。それは、下院が法案を二分割し、上院での審議を要しないものと要するものに分けたからで、審議のタイミングが上院にとって適当ではなくなったとの理由だった<sup>\*85</sup>。

下院本会議において、授權法案は賛成104、反対8（PTB）、棄権16（Vlaams Belang）で可決された。同時に、環境政党代表のカルボの提案で、政府の活動を監視する「特別権力統制委員会」を設置した<sup>\*86</sup>。委員長にはセルヴェ・フェルフェールストラテン Servais Verherstraeten（CD&V）が予定された。会合は月曜午後に開かれることにされた<sup>\*87</sup>。

3月27日金曜 上院本会議が、午前中に、下院により採択された法文を修正しないことを満場一致で決定した<sup>\*88</sup>。会議には、党派代表と議長ラリュエル、政府から予算相のデヴィッド・クラランヴァル David Clarinval のみが出席した。起立採決で可決された。これにより「2020年3月27日コロナウイルス COVID-19の蔓延に対する戦いの措置を取ることを国王に授權する法律（I）（II）」が成立<sup>\*89</sup>した。

## 第4章 今後の政界の動き

政党の国家的団結により、ウィルメス政府は、下院の信任を得てウイルス COVID-19に対する戦いに専心することになった。この過程に紆余曲折があり、政党や政治家の間に対立や軋轢が生じたことは否めない。政治家の評価にも変化が生じた。これらが今後の政治の動きにどのように作用するのか、コロナ騒動後のベルギー政治を考える手掛かりをつかみたい。

### 第1節 政治家の評価

\*PS党首マニエット…今回の最大の敗者はこの人である。党首としてN-VAとの連立を一旦は決めながら、党員からの大反対に遭い簡単に変心した。何日も考えた事に信念はなかったのかといぶかしく思うのは筆者だけだろうか。国家や国民のために政治家として、何よりも党首として、真剣に考えた事なら、党員を何としても説得し、その上で反対を押し切ってでもやるべき

ことがあるのではないか。そのような気概さえない彼の統率力ないし指導力には大きな疑問符がついたと思われる<sup>\*90</sup>。更に党の下部組織の信頼さえ失ったと言って良いだろう。彼は2019年10月20日に党活動家の95%の支持を得て党首に選出されたのだが、これは何が原因だろうか。

例外的状況においては、党内手続きを後回しにして党首が重鎮とのみ相談して様々な決定をすることがあり得る。今回のやり方に間違いはない。問題は彼の対応である。

従来からの政治状況や政党の勢力バランスなどを考慮に入れば、PSが好ましい相手とだけで連立を組むことは難しいことは分かっていたはずなのに、N-VA 敵視に事欠いて、日頃の活動の中で余りに相手を悪辣なものとして扱い過ぎたのではないか。それ故、若い党员達がそのように信じ込んでしまったことはないだろうか。PSには他党、特に反対党、を理解しようという姿勢がなさ過ぎたように思える。これは政党PSの問題である。

また、党首としては下部組織や党员の思いや考えをちゃんと理解できていない不十分さが露呈した。かなりの早口でとうとうと雄弁に語るマニエットの話し振りを見ていると、頭の良い人でイデオロギーと論理の中で生きているんだと思わせるものがある。そう言えば、政治学博士号を持つ大学教授だった。ただ、知的エリートのたまにある弊害として、人を人とも思わず、相手は感情のある人間だということが分かっていないのではないか（いくら正しくても理屈だけでは相手は納得しない）。友党の党首に事前に連絡もしないで簡単に前言を翻すことなどその例と言えよう。

政治家としては思いの外未熟ということになろうか。今回の事で、ここぞという大事な局面で簡単に意見を変える信頼できない人だとの評価がついた。皆は見ているし、直ぐに忘れもしないから、彼の前途は容易ではない。

\*N-VA 党首ドウ・ヴェーバー…何を考えているのか分からなくなった。この人も頭の良い機略に富んだ人ではある。ただ、こだわりが強過ぎて時に



周りが見えていないのではないのか。今回彼の主張が一貫していなかったように思えるが、時々で前提となる条件が変わるので、それはそれで仕方ないところもあるだろう。だが、政府を信任しないが、その特別権力には賛成するというのは如何にも分かりにくい<sup>\*91</sup>。

彼にとっての教訓は、憲法的には正しくても、政治的には間違いという事もあるということだ。それでなくても仏語系政党からの風当たりは強いのに自らを孤立させてしまったのは、今後を考えると、大望のある彼には大きい。フラマン語系政党（例・OpenVLD など）とも上手くやれていないのではないのか。恐らく今後はコロナ危機による景気後退を乗り越えるためにフランデレンの結束を訴え、そのために一層の自治を主張するだろうと想像はできるが、どうなることやら。

\*MR 党首ブッシュェ…拙論では余り触れることができなかったが、機会を捉えて良い所でメディアに登場し、存在感を高めた。多くの政党で世代交代があったが、ウィルメスを首相に維持し得た手腕は見事で、若手党首の中で最も活躍した1人と言って良いだろう。

\*首相ウィルメス…単なる中継ぎのはずが、大変な状況下首相としての責任を負わされた。それ故、誠実に働くこの人を見る国民の目は優しくまだ暖かい。元々目立つ人ではなく、その指導力についても未知数だし、カリスマにもやや欠けているところがあるかも知れない。今が彼女にとっての踏ん張り所である。

## 第2節 政党間の関係

\*PS と N-VA の間は元々あった深い溝が更に拡がり、回復しがたい状態になってしまった。N-VA と一致できる所は微塵もないとあれ程公言していたマニエットが、いつの間にか連立に傾き、一旦は合意までしたのだから、彼や PS の言葉は軽いと言えるかも知れない。そう取られないためには、今

回の翻意については丁寧な説明をしなくてはならなかった。そうせずに、N-VA に責任転嫁したことは公党の振る舞いとしては最悪であった。自分以外の他人が悪い、何と子供じみた言い訳であることか。

ワロニーとフランデレンを代表する政党の関係が完全にこじれてしまった状態では、将来の連立を構想する際にどうするのだろうか心配になる。互いが必要になる場合の事も考えて、もう少し考えた対応の仕方があるようなものだが（ものには言い様がある）、支持者や有権者の手前もあってか、公式にはそのような素振りさえ見えない。国民、特に有権者の期待に応えることのできる責任政党としての自覚を持たねばならない。

そもそも自らの共同体、ワロニーとフランデレンにおいて、いつまで第1党でいる事ができるのかという問題の方が大きいかも知れない。両党ともに選挙の結果には憂慮すべきものがあり、PS は支持が下げ止まらず、極左 PTB に支持者を奪われている。N-VA は初めて伸びが止まり、これも極右 Vlaams Belang に追いかけている。

\* 同じく憂慮すべきなのは、PS と sp.a の関係である。同じ社会主義を標榜する政党としての気安さなのか、それともマニエットの未熟な性格からか、電話1本で説明はできたのに、それさえしなかったから、党首間の関係は今回かなり傷付いた。これをどの様に修復するのか見物ではあるが、簡単ではあるまい。若い党首は真剣であっただけに、その無念の思いは深く沈潜していよう。

\* N-VA もそろそろ自分自身を見つめ直すべき時が来ているのではないか。党是としての「フランデレンの独立」はどう見ても実現の可能性はない。フランデレンにおいてさえその支持者は5%程度と言われている。その他のフラマン語系政党もその前段階に位置付けられている「国家連合」\*<sup>92</sup>にさえ賛意を示していない\*<sup>93</sup>。ベルギー憲法の硬性度を考えれば、あり得ないと断言できよう\*<sup>94</sup>。これは彼ら自身も分かっているはずである。連立政権に参加し

て枢要なポストを占めて統治を実際に担当したことから、学んだことが沢山あるはずであり、彼らにとって大事だったのは、「社会・経済問題」や「移民」、「安全」などの問題ではなかったか。それは右派というより「中道」に近い路線である。彼ら自身それに気付くべきで、古い殻を脱ぎ捨てるべき時が訪れているのである<sup>\*95</sup>。そうすれば、現実的な政党としてより広く受け入れられることになるだろう<sup>\*96</sup>。また、ドゥ・ヴェーバーの後継者を育成することも忘れてはなるまい。

さて、政党にはそれぞれの考えや主張があり、選挙を考えれば、おいそれとは譲れない。だが、小党分裂状態においては、連立は不可避なのだから、如何に尊重し合い、如何に協力し、譲り合うかが大切なのは言うまでもなからう。でなければ、いつまでも多数派を形成できないことになる。国民の生活こそ第一に考えるべき事であるはずなのに、結果としてこれが疎かになってしまっているのではないか。だから、無責任に何でも言える新興政党に支持がまわるのである。彼らは実際に政治を担当することがないから例えば財政的裏付けなど何の根拠もなしに有権者の聞き心地の良いことばかりを語ることができる。これにある程度の支持が行くのである。こうして悪いスパイラルがいつまでも続く。これを如何に断ち切るかが今解決を迫られている課題なのである。ありきたりだが、政治への信頼回復のための地道な日々の活動が不可欠で、謙虚に耳を傾け、誠実な対応を心掛ける。それを世代交代した若い党首達<sup>\*97</sup>に期待したい。

### 第3節 制度改革の見込み

ベルギーでは、将来の制度改革を考えると、先ず憲法改正が必要になるが、憲法の改正規定は額面通りに受け取れば世界で最も厳格な硬性憲法である（改正宣言、解散・総選挙、両院での3分の2の賛成、憲法195条参照）。次に、この改正内容を具体的に実行するための法律、つまり制度改革特別法、

の改正も必要になるが、憲法改正以上に厳格な条件が付されている（3分の2の賛成に加え、各言語グループの過半数の賛成を必要とする。憲法4条最終項参照）。

この条件を満たすためには、特別な多数派の形成が不可欠であり、フランデレンの人々の望む改革の実現にはワロニーの人々の理解なくしては進められないし、逆もまたしかりである。従って、多数派形成につながる政治の動きこそが、ベルギー国の将来を見守る者にとって最も注目すべき点である。

さて、今回見えてきたのは、国家改革について積極的なフランデレンにあっては政党間にかかなりの意見の違いがあることである。国家改革の必要性では合意がある。但し、その具体的内容については、例えばN-VAの求める先ず国家連合 *confédération*、次にフランデレンの独立という「段階的ベルギー分割案」に賛成する民主的政党は皆無である<sup>\*98</sup>。また、N-VA自身にとっても国家連合という言葉だけが先走りして、これを実現したら、何がどう変わり、ベターなものになるのかの説得力のある具体的説明がない（党是についてさえこの程度に過ぎないから、他も推して知るべし）。これで何を実現できるだろうか。急伸張政党の弱みがここによく現れている。尤も既に触れたように、この党の（無自覚的な？）進化から国家連合は単なる建前に過ぎなくなっているのではないかと思わせるものがある。

これに反して、他党、CD&VやOpenVLDなどは理に適った具体的要望<sup>\*99</sup>を持っていることが分かってきた。CD&Vは早くから次の立法期（2024年以降）に制度改革をしたいと希望を述べてきたが<sup>\*100</sup>、それは他党、特に仏語系、にもそれに間に合うように準備をして欲しいとの思いからである。仏語系政党<sup>\*101</sup>も国をもっと効率的<sup>\*102</sup>に運営できるようにしたいとの思いがあり、それが下院選挙後の一連の連立交渉の間に見えてきた。これらの改革への思いが4年後に相乗的な効果をもたらさないとは言い切れないと思われる。現在有効な「憲法改正宣言」（M.B., 23 mai 2019）は、最小限のリストであ

り、求められている制度改革に対応できるものではない。だからこそ、色んな提案<sup>\*103</sup>もなされている今は、それらをも踏まえて次の改革について熟慮し、準備をすべき時なのである。4年は十分な期間である。

もし仮に、現在のウィルメス内閣またはその後の政権が、様々な内政の課題について何とか協力して各党の違いを乗り越えることができれば、共に国家改革についても話し合える土台が調う希望が見えてくる。また、国家連合を掲げる N-VA を排除できる場合または N-VA が現実的な変化を見せる場合（共同体問題の棚上げなど）には、多くの政党が国の効率化などという点で一致できる可能性が生じるのではなかろうか。

## おわりに

勿論、そこに至るまでに幾つもの乗り越えるべき障碍がありはする。しかし、国をより良く機能させる改革が必要であるし、具体的改革案も示されている。国の将来を考えれば、それは必ず成し遂げねばならないのである。丁度今、一時的ではあるがコロナ対策に皆が結集できた。その気になってやればできるのである。ベルギーの人々がこのことに改めて気付いた意味は大きいと思われる。

擲筆の時点では、まだそれが何時になるのか全く分からないが、いずれにせよ COVID-19 に対する戦いが終われば、次の連立政権をどう組むのかが課題となる。どの様になるかが次の国家改革の見込みを占う手掛かりとなるう。

2020年4月21日擲筆

---

\* 1 拙稿「ベルギーの地方選挙（2018年10月14日）の結果とその影響－憲法的分析－」福岡大学法学論叢第63巻第4号、2019年3月、p. 827

\* 2 2019年10月27日付 AFP BB news、産経、時事、共同など。どの記事もみな、「暫定内閣」と説明しているが、辞職後次の内閣の成立まで事務管理することを暫定と呼んでは誤解を与えよう。暫定とは、「仮の」または「一時的の」という意味であり、「事務管理内閣」は主に国の仕事に空白が生じないよう国家行政の継続性の確保に当たるのだから、そのような責任のある内閣の活動が、仮のものでも一時的でもないのは明らかである。

\* 3 例えば、キリスト教社会党 (CD&V と cdH) は、1950年に47.7%の歴史的記録を打ち立て、首相を輩出するなどその後常に政界のリーダーであったが、2004年から2009年の間は平均22.6%にまで下げ、2019年の地方選挙で13.6%、下院選挙では12.6%に過ぎなくなった。

社会党 (PS と sp.a) は、1954年に38.6%の最高得票を記録したが、それ以降長期低落傾向に歯止めが掛からず、2007年から2014年の間は平均21.2%の得票率であった。2019年には地方選挙で15.9%、下院選挙で16.2%と結党以来の最低得票率を記録した。PS は仏語政党の中では何とか第1党を維持できてはいる。

自由党 (MR と OpenVLD) は、80年代以降およそ20%以上を維持していたのに、2009年から2014年の間平均得票率は18.6%に過ぎず、2019年には地方選挙で15.9%、下院選挙で16.1%に落ち込んだ。

伝統的3党は、かつては80%以上の得票を集めていたが、2019年には50%を下回り、地方選挙で45.4%、下院選挙で44.9%しか得票できていない。つまり、極右や極左、環境政党の方が、今では多数派なのである。ISTASSE(C.), "Les évolutions électorales des partis politiques (1944-2019) II. Analyse nationale", CH de Crisp, no.2418-2419, 2019, pp.16-17, 19, 21et39. Voir aussi BIARD(B.), BLAISE(P.), FANIEL(J.), ISTASSE(C.) et SÄGESSER(C.), "Les résultats des élections fédérales et européennes du 26 mai 2019", CH de Crisp, no.2433-2434, 2019.

因みに、各党の支持率と獲得議席数は、CD&V8.89%、12議席 (－6)、cdH3.70%、5議席 (－4)、PS9.46%、20議席 (－3)、sp.a6.71% 9議席 (－4)、MR7.56%、14議席 (－6)、OpenVLD8.54%、12議席 (－2)、N-VA16.03%、25議席 (－8)、Vlaams Belang11.59%、18議席 (+15)、PTB8.62%、12議席 (+10)、Ecolo6.14%、13議席 (+7)、Groen6.10%、8議席 (+2) である。Source Service Public Fédéral intérieur.

\* 4 RTBF du 28 mars 2020, "Coronavirus en Belgique: entre le 15 et le 27 mars, 1063 patients ont pu quitter l'hôpital"

\* 5 2010年に設置された、国の収支を注視し、これについての予測をし、予算について報告する任務にあるモニター委員会 le comité de monitoring が、2020年度の財政赤字は134.9億ユーロ、GDPの2.77%になるとの予測を発表した (RTBF du 13 mars 2020, "Formation fédérale: PS et la N-VA plangent autour d'un gouvernement "coronavirus" d'urgence" et La Libre Belgique du 12 mars 2020, "Vers une nouvelle dégradation du déficit en 2020."). 事務

管理内閣ではその権限内での対処に限界があり、もっと悲惨な状況になることは容易に予測された。後になるがDe Tijd紙は、コロナ危機により赤字が300億ユーロ以上、GDPの7%になるとの予測をしていた（RTBF du 26 mars 2020: “Coronavirus: le déficit budgétaire en route vers les 30 milliards d’euros et les 7% du PIB.”）。ということは、EU安定と成長協定に定められた国家財政の健全性基準（単年度赤字GDP3%以内、累積債務GDP60%以内）を守れなくなってしまう。ベルギーにとっては深刻な事態である。

\* 6 Le Vif du 19 mars 2020, “La sérieuse comédie du pouvoir.”

\* 7 1番目が、ディディエ・レンデルス Didier Renders（MR）とヨハン・ヴァンドゥ・ラノット Johan Vande Lanotte（sp.a）の組閣情報提供者 informateurとしての任務（2019年5月30日から10月7日まで）である。レンデルスは仏語系自由党、ヴァンドゥ・ラノットはフラマン語系社会党のどちらも老練な政治家であり、下院の最大勢力の代表として組閣情報提供者としての確と判断された。ワロニーとフランデレンの最大会派である社会党PSと新フラームス同盟N-VAの仲を取り持とうとしたが、PSには全くその気がなく潰えた。

2番目が、ヘルト・ブルジョワ Geert Bourgeois（N-VA）とルディ・ドゥモット Rudy Demotte（PS）の組閣準備者 preformateurとしての任務（10月8日から11月4日まで）である。2人はそれぞれフラマン政府とフランス語共同体政府の指導者であり、これもバランスの取れた人選であった。しかし、PSとN-VAは折り合わなかった。

3番目が、ポール・マニエット Paul Magnette（PS党首）による組閣情報提供者としての任務（11月5日から12月9日まで）である。PSが中心となりN-VAを除く連立（社会党、環境政党、自由党から成る中道左派の“虹の連立” coalition arc-en-ciel）を追求したが、CD&VとN-VAの批判を浴びた。

4番目が、ジョルジュ・ルイ・ブッシュエ George-Louis Bouchezとヨアキム・コーンス Joachim Coensによる組閣情報提供者としての任務（12月10日から2020年1月31日まで）である。MRとCD&Vの若い新党首の手腕が期待された。虹の連立にキリスト教民主フラームス党CD&Vを加えた中道の“ヴィヴァルディ連立” coalition Vivaldi（4党のシンボルカラー4色から四季が連想されヴィヴァルディと呼ばれるようになった）を模索したが、CD&VがN-VAの参加しない連立には加わらないとの態度を維持し続け、加えてN-VAが妥協的姿勢を見せたため、これを加える連立が追求されることになった。

5番目がクーン・ヘーンズ Koen Geens（CD&Vの副首相）による任務（1月31日から2月14日まで）である。N-VAとPSから成る多数派形成を目指したが、最終的にPSが拒否した。

6番目がパトリック・ドゥワール Patrick Dewael（OpenVLD フラマン語系自由党、下院議長）とサビーヌ・ラリュエル Sabine Laruelle（MR、上院議長）による任務（2月19日か

ら3月17日まで)である。政府樹立のための話し合い任務の途中で新型コロナウイルス蔓延により突然風向きが変わった。

\* 8 La Libre Belgique du 13 mars 2020, “Un gouvernement d’urgence PS-N-VA est en vue, affirment plusieurs sources.”

\* 9 Le Soir du 13 mars 2020, “Coronavirus: Dewael (VLD) et Laruelle (MR) pressent le PS de s’allier à la N-VA.”

\* 10 Le Vif du 13 mars 2020, “Vers un gouvernement d’urgence PS-N-VA?”

\* 11 *ibid.*

\* 12 *op.cit.* (注8)

\* 13 Le Soir du 15 mars 2020, “Coronavirus: chronique de quatre jours de crise rocambolesque.”

\* 14 *ibid.*

\* 15 *op.cit.* (注6)

\* 16 La Libre Belgique du 14 mars 2020, “Négociations en cours: Sophie Wilmès resterait la Première ministre d’un gouvernement PS/N-VA.”

\* 17 RTBF du 14 mars 2020, “Pour faire face à la crise coronavirus, Bart De Wever plaide pour un gouvernement d’urgence d’un an.”

\* 18 *ibid.*

\* 19 Le Vif du 14 mars 2020, “Les appels à former un gouvernement d’urgence se multiplient.”  
尤も、彼が賛成するのは、前の週にCD&Vによって葬られたヴィヴァルディ連立だと思われるけれど。

\* 20 *op.cit.* (注16)

\* 21 *op.cit.* (注19)

\* 22 Le Vif du 14 mars 2020, “Le PS ne veut pas changer de Premier ministre en pleine crise.”

\* 23 Le Soir du 14 mars 2020 à 22:53, “Coronavirus: négociations nocturnes pour un gouvernement avec le PS, la N-VA, les libéraux et le CD&V.”

\* 24 RTL du 15 mars 2020 à 01:13, “Formation fédérale-La crise autour du coronavirus semble enclencher le turbo dans les discussions fédérales.”

\* 25 *op.cit.* (注13)

\* 26 Le Vif du 15 mars 2020, “Crise politique: le tout grand jour des tout petits jeux.”

\* 27 しかし、ソフィー・ウィルメスを首班とする10名の大臣から成る緊急政府を樹立するという「原則的な合意」が6党間にあったとの報道がある(Echo du 16 mars 2020, “Au bout d’un week-end de zizanie, les pouvoirs spéciaux pour le Fédéral.”)。原則的合意が成立したからこ



そ、マニエットは、日曜午後に予定されている2度目の6党会議の前に、党機関での承認を得ようとして日曜午前中に Web 会議を開いたと考えれば、辻褄が合う。やはり、“一応の合意 un quasi-accord” が成立していたと見るべきであろう。

- \*28 VRT du 15 mars 2020 à 08:10, “Pas encore d'accord en vue de la formation d'un gouvernement d'urgence.”
- \*29 Le Vif du 15 mars 2020, “La crise du coronavirus enclenche le turbo pour la formation d'un gouvernement.” et La Libre Belgique du 15 mars 2020, “Formation fédérale: le coronavirus pousse à l'action et impose une réunion électronique du bureau du PS à 11h.”
- \*30 op.cit. (注26)
- \*31 Le Vif du 15 mars 2020, “Formation fédérale: les francophones pour un soutien à Wilmès, la N-VA contre.”
- \*32 Le Soir du 15 mars 2020, “Coronavirus: Paul Magnette (PS) refuse de monter dans un gouvernement d'urgence avec la N-VA.” et La Libre Belgique du 15 mars 2020, “Le PS apporte son soutien au gouvernement actuel et enterre ainsi l'idée de former une nouvelle majorité avec la N-VA.”
- \*33 op.cit. (注31)
- \*34 VRT du 15 mars 2020, “Les partis francophones rejettent l'idée d'un gouvernement d'urgence.”
- \*35 Le Soir du 15 mars 2020, “Négociations fédérales: Jan Jambon (N-VA) rejette l'idée d'un soutien élargi au gouvernement démissionnaire.” et RTL du 15 mars 2020, “Jan Jambon rejette l'idée d'un soutien élargi au gouvernement démissionnaire.”
- \*36 op.cit. (注31)
- \*37 RTBF du 15 mars 2020, “Formation fédérale: Paul Magnette rejette l'idée d'un gouvernement d'urgence avec la N-VA.”
- \*38 Le Vif du 15 mars 2020, “Formation fédérale: les présidents de partis se réunissent au parlement.” et La Libre Belgique du 15 mars 2020, “Formation fédérale: Les présidents de parti se retrouvent au parlement.”
- \*39 Echo du 16 mars 2020, “Jusqu'à six mois de pouvoirs spéciaux pour le gouvernement Wilmès.”
- \*40 op.cit. (注13)
- \*41 Le Soir du 15 mars 2020, “Coronavirus: les Flamands étonnés, parfois «dégoutés» par le «non» des francophones à un gouvernement d'urgence.”
- \*42 op.cit. (注39)

- \*43 VRT du 15 mars 2020 à 22:49, “Le gouvernement Wilmès va obtenir des pouvoirs spéciaux pendant 6 mois.”, Le Soir du 15 mars 2020 à 22:53, “Coronavirus: le gouvernement Wilmès obtient les pouvoirs spéciaux pour lutter contre l’épidémie.” et RTL du 15 mars 2020 à 23:01, “Le gouvernement de Sophie Wilmès reste en place et pourra obtenir des pouvoirs spéciaux pour gérer la crise du coronavirus.”
- \*44 ibid. (RTL)
- \*45 ibid. (RTL)
- \*46 ibid. (RTL)
- \*47 Le Soir du 15 mars 2020, “Coronavirus: un gouvernement Wilmès avec des pouvoirs spéciaux, ce que ça va changer.”
- \*48 La Libre Belgique du 16 mars 2020, “Dimanche, Bart De Wever a tenté un dernier coup de poker.”
- \*49 Le Soir du 15 mars 2020, “Sophie Wilmès et son gouvernement avec des pouvoirs spéciaux: 《Le sens du devoir nous anime》.”
- \*50 Le Soir du 16 mars 2020, “Coronavirus: des pouvoirs spéciaux pour le gouvernement Wilmès, la solution complexe.” 以下の記述は本記事に基づく。
- \*51 La Libre Belgique du 16 mars 2020 à 06:52, “Bart De Wever: “Beaucoup de bruit pour peu de choses”.”
- \*52 Delpérée (F.), *LE DROIT CONSTITUTIONNEL DE LA BELGIQUE*, Bruylant et L.G. D.J., 2000, pp.955-966. et *PETIT ABÉCÉDAIRE POLITIQUE*, Édition Les Claines, 2011, pp.14 et 38.
- \*53 Le Soir du 16 mars 2020, “Coronavirus: le vote de confiance au gouvernement Wilmès n'est pas acquis.”
- \*54 loc.cit.
- \*55 La Libre Belgique du 16 mars 2020, “Le gouvernement Wilmès risque de ne pas avoir la confiance de la Chambre: “Pas nécessaire”.”
- \*56 Le Vif du 16 mars 2020, “Un gouvernement Wilmès II renforcé pour une lutte à mort contre le coronavirus. Avec confinement généralisé?”
- \*57 op.cit. (注53)
- \*58 La Libre Belgique du 16 mars 2020, “Le gouvernement de Wilmès pourrait ne pas avoir la confiance? “Jouer dans une période comme celle-ci est plus que décevant”.”
- \*59 もう少し考えてみたい。事務管理内閣が「緊急対処権」を行使する場合と完全な権限を持つ内閣が「特別権力」を行使する場合とでは、どんな違いがあるのだろうか。緊急事態に

対する対応だから、採られる措置にそう違いはないと思われる。しかし、憲法的には大きな違いがある。先ず、事務管理内閣の場合だが、緊急対処権は理論的根拠しか持たず、法的根拠がない。先例から生まれた憲法慣習が存在するのみである。これに基づく緊急対処権の範囲がどこまでかとなるとそこは曖昧である。過去の例では、NATOの一員としてリビアに対する空爆にも参加している。ここでは国の存立に重大な影響を与えかねない事態が想定されているはずだが、その認定は甘いように思える。国会の承認さえあれば何でもできるかのごとくである。これでは歯止めにならない。次に、特別権力行使の場合だが、これには授權法を必要とする。この法律で、授權の目的、対象、方法、行使期間などを限定でき、国会の事前または事後の承認を緊急措置の有効性の要件にもできる。国会の民主的統制を色んなところで及ぼすことが可能になる。こちらの方がより民主的だと評価できる。従って、授權法を定めて特別権力行使を認める方法が憲法的には正しい。

\*60 RTL du 17 mars 2020, “Sabine Laruelle EXCÉDÉE par les “jeux politiques” autour de la confiance au gouvernement: “Je suis en colère, j’en ai assez!””

\*61 La Libre Belgique du 16 mars 2020, “La première ministre Sophie Wilmès chargée de former le gouvernement.”

\*62 La Libre Belgique du 17 mars 2020, “Sophie Wilmès a prêté serment en tant que Première ministre.”

\*63 Le Soir du 17 mars 2020, “Le discours de Sophie Wilmès à la Chambre: un éclair de lucidité au sommet de l’Etat belge.” 「彼女は、落ち着いていて、穏やかで、堂々とした演説をした。首相は責任感にあふれ、一言で言えば公平な人だ。」とコロナ危機の中で暗いニュースばかりだったが、久々の良いニュースだと報じられた。RTBF du 18 mars 2020, “Sophie Wilmès, la bonne nouvelle.”

\*64 La Libre Belgique du 17 mars 2020, “Le gouvernement Wilmès II est sur les rails.”

\*65 La Libre Belgique du 17 mars 2020, ““Nous devons faire preuve d’unité”: face au coronavirus, voici les nouvelles mesures annoncées par Sophie Wilmès.”

\*66 Le Vif du 19 mars 2020, “Sophie Wilmès a reçu la confiance de la Chambre: “Je suis consciente de mes responsabilités.””

\*67 Le Soir du 19 mars 2020, “Le gouvernement Wilmès II obtient la confiance de la Chambre: 9 patis pour, 3 contre.”

\*68 こうして得られた「信任」の期間については争いがある。最大6箇月の特別権力付与の前提としての信任だから、その期間は6箇月に過ぎないとする政治的理解がある。だから、首相は、その政府宣言において、「6箇月後に国会の信任をまた求めたい。」（Compte rendu analytique, Ch.repr., no.29, 17 mars 2020, pp.1-5.）と述べたとする。これに対し、下院の信任

そのものは正式な形で行われたのだから、憲法的には期間は無期限であり、辞職や不信任のみによってのみ終了とする法的理解である。

\*69 ミッシェルの代わりに首相になった時、申し訳ないけれど、そう遠くない将来に連立の話がまとまり、新たな首相が選ばれるまでの事務管理担当の中継ぎ首相に過ぎないと筆者は軽く思っていた。それまではほとんど目立たない、知られていない政治家だった。ところが、今彼女は国家的団結の象徴的存在としてコロナとの戦いの先頭に立っている。人の意見を聴く誠実な仕事ぶりは評価できる。PS と N-VA の政権樹立があと一步に差し掛かって、彼女が首相の座から引きずり下ろされるかもとなった頃に、ハッシュタグ「ソフィーを守れ」#KeepSophie との運動がフェイスブックとツイッターで起こり、MR の支持者以外にも拡がっていった。多くは危機管理で彼女が見せた勇気を強調していた。La Libre Belgique du 15 mars 2020, “#KeepSophie: mobilisation pour garder Sophie Wilmès à la tête du gouvernement.”

\*70 [www.sophiewilmès.be](http://www.sophiewilmès.be) et La Libre Belgique du 21 mars 2020, “Sophie Wilmès, la vraie Première.” この記事はウィルメスの人となりについて触れている。財務担当の助役であった時、文書の隅々まで、下の注までしっかり目を通して、間違いを指摘するなどの几帳面で真面目な仕事ぶりや論すような優しい口調で国民に語りかけるなどの女性らしいところ、日の当たる所やマスコミにもはやされることを好まないその性格などが語られている。

\*71 [www.voculairepolitique.be/pouvoirs-speciaux](http://www.voculairepolitique.be/pouvoirs-speciaux) 因みに、特別権力は、国家緊急権 *pouvoirs extraordinaires* とは区別される。国家緊急権に基づくアレテは、有事の際に用いられ、授權の範囲が広く、アレテは法律の効力を始めから持つ。また、アレテ・ロワ *arrêtés-lois* と異なる。これは、立法権の3部門の1つにより、他の部門がその権限行使不能の場合に、定められるものをいう。2つの大戦中に、状況に迫られて定められたことがある。

\*72 以上の記述は以下の記事に基づく。RTBF du 16 mars 2020, “Gouvernement Wilmès:c'est quoi les pouvoirs spéciaux ?”, La Libre Belgique du 16 mars 2020, “Pourquoi des pouvoirs spéciaux ? “Le but, c'est l'efficacité”” et Le Soir du 16 mars 2020, “Coronavirus: comprendre les 《pouvoirs spéciaux》 du gouvernement Wilmès en neuf questions.”

\*73 La Libre Belgique du 27 mars 2020, “Christian Behrendt: “La loi d'habilitation sur les pouvoirs spéciaux est bien dosée”.”

\*74 Proposition de la loi habilitant le Roi à prendre des mesures de lutte contre la propagation du coronavirus Covid-19, Doc.parl., Ch.repr., sess.2019-2020, Doc 55 1104/001.

\*75 RTL du 21 mars 2020, “Les pouvoirs spéciaux au fédéral seront votés jeudi.”

\*76 La Libre Belgique du 22 mars 2020, “Wilmès II sera doté des pouvoirs spéciaux.”

\*77 Avis du Conseil d'État, N° 67.142/AG du 25 mars 2020, Doc 55 1104/002, p.3

\*78 La Libre Belgique du 23 mars 2020, “Pouvoirs spéciaux: l'avis du Conseil d'Etat attendu

mercredi, le vote jeudi.”

- \*79 La Libre Belgique du 23 mars 2020, “Le texte validant les pouvoirs spéciaux au gouvernement fédéral sera voté jeudi.”
- \*80 Le Vif du 25 mars 2020, “Le Conseil d’Etat préconise d’adopter des articles de la loi des pouvoirs spéciaux.” et RTBF du 25 mars 2020, “Coronavirus en Belgique: la N-VA met en garde les autres partis sue les pouvoirs spéciaux suite à l’avis du Conseil d’Etat.”
- \*81 第6次国家改革で上院は非常設とされその権限が削減された。上院は、下院から送付された法案（憲法78条§1）について、議員の過半数の請求により、審議することができる（同条§2）。請求により審議できるので、「選択的」と呼ばれているのである。この請求は、法案の受領から15日以内に行われることになっているので、今回の特別法審議に際しては、緊急を援用してこの15日の期間短縮が図られ、本来なら30日の審議期間があるのに、直ちに修正の必要を認めないとの決定を上院はしたのである。
- \*82 Doc.parl., Ch.repr., sess.2019-2020, Doc 55 1104/006
- \*83 La Libre Belgique du 26 mars 2020, “les pouvoirs spéciaux passent le cap de la commission.”
- \*84 RTL du 26 mars 2020, “Le Sénat se prononcera également sur la loi de pouvoirs spéciaux.”
- \*85 Le Soir du mars 2020, “Coronavirus: la séance plénière du Sénat sur les pouvoirs spéciaux reportée à vendredi.”
- \*86 La Libre Belgique du 26 mars 2020, “La Chambre accorde les pouvoirs spéciaux au gouvernement: une commission créée pour le surveiller.”
- \*87 La Libre Belgique du 26 mars 2020, “Coronavirus: la Chambre adopte la loi de pouvoirs spéciaux.”
- \*88 Projet de la loi habilitant le Roi à prendre des mesures de lutte contre la propagation du coronavirus COVID-19(I), Doc.parl., Sénat, sess.2019-2020, Doc 7-152/1 et 7-152/2
- \*89 M.B., le 30 mars 2020, Numac:2020040937 et 2020040938
- \*90 政治学者のデイヴ・シナルデ Dave Sinardet（オランダ語系ブリュッセル自由大学 VUB）の言である。La Libre Belgique du 15 mars 2020, “La thèse du PS et celle de la N-VA pouvaient chacune être défendu.”
- \*91 Le Vif du 15 avril 2020, “Bart De Wever a définitivement perdu sa position dominante.”
- \*92 RTBF du 14 janvier 2019, “Que signifie le confédéralisme exigé par la N-VA?”
- \*93 OpenVLD の党首グエンドリッ・リュテン Gwendolyn Rutten は、「我々は共同体問題から最も遠いところにいたい。私は国を細分化するなど全く望んでいない。」とまで言っている。RTBF du 24 déc. 2018, “Pour le CD&V, le départ de la N-VA du gouvernement fédéral

complicque la révision de la Constitution.” また、MR のシャステル Chastel（前党首）も、国家連合を交渉するつもりはないと断言していた。La Libre Belgique du 12 janvier 2019, “Olivier Chastel: “Le MR ne négociera pas le confédéralisme.””

\*94 Le Soir du 14 janvier 2019, “Confédéralisme: la N-VA face à un mur.”, Le Soir du 27 janvier 2019, “Créer une Belgique confédérale, c’est facile》 selon la N-VA? Pas si vite...” et RTBF du 28 mai 2019, “Instaurer le confédéralisme ? Ce n’est pas si simple.”

\*95 Le Soir du 4 mars 2020, “La N-VA a-t-elle renoncé à l’indépendance de la Flandre?”

\*96 少し前だが sp.a 前党首 Crombez は、フランデレンや連邦を治めるのに N-VA とはどんな協力もほとんどあり得ないと述べていた。La Libre Belgique du 30 avril 2019, “Crombez(sp.a) n’entend pas gouverner avec N-VA: “Personne ne le comprendrait.””

\*97 例えば、CD&V の Coens（66年9月生）は2019年12月6日選出、sp.a の Rousseau（92年11月生）は2019年11月8日選出、PS の Magnette（71年6月生）は2019年10月20日選出、MR の Bouchez（86年3月生）は2019年11月28日選出、cdH の Prévot（78年4月生）は2019年1月26日選出、Ecolo の共同代表 Nollet（70年1月生）と Maouane（89年7月生）は2019年9月15日選出、Défi の De Smet（77年5月生）は2019年12月1日選出など、党首として選ばれたばかりである。

\*98 La Libre Belgique du 28 juillet 2018, “Alexander De Croo: “L’idée du confédéralisme, c’est crée la conflit permanent.””

\*99 MR は、交通 mobilité、エネルギー、貿易 commerce extérieur、保健などの再連邦化 refédéralisation を説いている。RTBF du 3 août 2018, “Plusieurs poids lourds du MR appellent à une refédéralisation.” 再連邦化に賛成する者は多く、OpenVLD の他に、Groen や CD&V 青年部、MR 青年部などが挙げられる。La Libre Belgique du 29 juillet 2018, “Les rêve de confédéralisme et de refédéralisation vont s’annuler.” cdH の プレヴォ Prévot も再連邦化に賛成している。La Libre Belgique du 6 août 2018, “Après De Croo et une partie du MR, Maxime Prévot et le cdH se rangent du côté de la refédéralisation.”

\*100 Le Soir du 11 mars 2019, “Le CD&V réclame une 7e réforme de l’Etat en 2024.” et “La Flandre a de la suite dans les idées.” 彼らは医療の分野の分権を望んでおり、再連邦化（権限の再編）には反対の立場である。

\*101 Ecolo や OpenVLD は、以前から共同体問題とは関わらない部分での改正を求めている。例えば、Ecolo は16歳選挙権、連邦選挙区、国民投票など、OpenVLD は基本権の充実を求めている。La Libre Belgique du 4 mars 2019, “Pourquoi les députés risquent de voir leurs vacances de Pâques raccourcies.” また、フラマン語系の sp.a は、政府内に最低40%の女性の存在を求めている。RTBF du 6 mars 2019, “Pour le sp.a, la Constitution doit prévoir un mini-

mum de 40% de femmes dans les gouvernements.”

\*102 RTBF du 29 janvier 2019, “Jean-Luc Crucke: “Au nom de l’efficacité, régionalisons”. 効率に関して1つだけ例を示そう。OpenVLDの保健相 Maggie De Blockによれば、保健の分野には全部で9人の大臣がいるそうである。分権の結果こうなったのであるが、国民は高々1,000万人に過ぎないのだから、効率を言うまでもなく権限の再編が必要なのは明らかである。La Libre Belgique du 10 aout 2018, “A quoi servent les neuf “ministres de la Santé” en Belgique.”

\*103 現在の憲法の問題点を指摘し、改善を説くものとして、若手学者による Le Soir du 14 fév. 2019, “Au secours, la Constitution belge prend la poussière!” があり、憲法学者によるものとしては、Verdussen(M.), *RÉENCHANTER LA CONSTITUTION*, Académie royale de Belgique, 2019がある。一般向けの新書版だが、なかなか中身は濃い。

#### 参考資料

## 2020年3月27日コロナウイルス COVID-19の蔓延に対する戦いの措置を取ることを国王に授権する法律（I）

フィリップ、ベルギー人の王は、  
現在および将来の国民全てに挨拶を送る。

両議院が可決したので、我々は以下のように審署を行う。

第1条 本法は、憲法第78条所定の事項について定める。

第2条 ベルギー国に、コロナウイルス COVID-19の流行または世界的流行と戦いかつその結果に対処することを可能にするために、国王は、閣議で審議されたアレテにより、第3条、§ 1に定められた措置を取ることができる。

必要な場合には、この措置は遡及効を持つことができる。但し、2020年3月1日以前に遡ることはできない。

第3条、§ 1. 第2条1項に定められた目的を達成するために、国王は、独

立および公平の基本原則を尊重しかつ人々の防禦権を考慮に入れて、コンセイユ・デタ訴訟部および行政裁判機関の良好な運営および特に裁判行政並びにその他の任務の継続性を確保するために、これらの裁判機関の権能、運営、法律により定められた期間を含む手続きを適応させるための措置を取ることができる。

§ 2. 第1節のアレテは、有効な法律の規定を、憲法により法律に明らかに留保されている事項においても、廃止し、補足し、改正し、代替することができる。

第1節のアレテは、これらのアレテのいくつかの違反に適用される行政上、民事上および刑事上の制裁を定めることができる。

刑事上の制裁は、当該違反について、改正または代替された立法の規定を上回る刑罰を定めることができない。

刑事法典第1篇の規定、第7章と第85条を含む、はこれらのアレテにより導入された刑事上の制裁に適用される。

第4条 コンセイユ・デタに関する1973年1月12日整理法の例外として、第3条§1のアレテに関するコンセイユ・デタ立法部の意見は、同法第84条、§1、1項3°に定められた期間内に発せられる。この期間は、同法第85条または第85条の2の適用の場合に、延長されることができない。

コンセイユ・デタに関する1973年1月12日整理法の例外として、コロナウイルス COVID-19の蔓延に対する戦いの措置を取ることを国王に授権する2020年3月27日法(II)の第5条、§1、1°のアレテについては、コンセイユ・デタ立法部の意見が必ず徴せられるものではない。

コンセイユ・デタに関する1973年1月12日整理法の例外として、コロナウイルス COVID-19の蔓延に対する戦いの措置を取ることを国王に授権する2020年3月27日法(II)の第5条、§1、2°から8°のアレテに関するコンセイユ・デタ立法部の意見は、同法第84条、§1、1項3°に定



められた期間内に発せられる。

第5条 本法により国王に認められた権限は、本法発効後3箇月で有効期間が満了する。

第3条、§1のアレテは、その発効から1年の期間内に法律により追認される。

第3条、§1のアレテは、第2項の期間内に追認されなかったとき、その効果を決して発生させなかったものと見なされる。

第6条 本法は、官報に登載された日に発効する。

本法を審署したので、国璽が押され、官報で公布されることを命じる。

2020年3月27日 ブリュッセルにて

署名フィリップ

以下、署名略

## 2020年3月27日コロナウイルス COVID-19の蔓延に対する戦いの措置を取ることを国王に授権する法律（II）

フィリップ、ベルギー人の国王は、

現在および将来の国民全てに挨拶を送る。

下院が可決したので、我々は以下のように審署を行う。

第1条 本法は、憲法第74条所定の事項について定める。

第2条 ベルギー国に、コロナウイルス COVID-19の流行または世界的流行と戦いかつその結果に対処することを可能にするために、国王は、閣議で審議されたアレテにより、第5条、§1、1° から8° に定められた措置を取ることができる。

必要な場合には、これらの措置は遡及効を持つことができる。但し、2020年3月1日以前に遡ることはできない。

第3条 本法により定められた国王のアレテは、家族の購買力および既存の社会的な保障 *protection sociale* を侵害することができない。

第4条 本法により定められた国王のアレテは、社会保障費 *cotisations de sécurité sociale*、税金 *impôts*、租税 *taxes*、納付金 *droits*、特に課税根拠 *base imposable*、料金、可課税取引 *opérations imposables* を適応させ、廃止し、改正し、または代替することができない。

第5条、§ 1. 第2条1項の目的を達成するために、国王は、以下のために措置を取ることができる。すなわち、

1° 国民の中でのコロナウイルス COVID-19の事後的流行と戦うため。これには公衆衛生と公共の秩序の維持を含む。

2° 必要な後方業務および受入れ能力を保証するため。これには生活必需品の安全な供給またはその準備を含む。

3° 流行の影響を抑えるために、被害を受けた財務分野、経済分野、商業分野および非商業分野に直接または間接の支援を与え、保護措置を取るため。

4° 経済の継続性、国の財務的安定および市場の運営を保証し並びに消費者を保護するため。

5° 国の経済的利益および困窮分野を保証することにより、労働者および国民並びに企業および行政の良好な組織の保護のために労働の権利および社会保障に対する権利への適応を行うため。

6° 国王により定められた期間内に、法律によりまたは法律に基づいて定められた期間を停止しまたは延長するため。

7° 司法権の独立および公平の基本原則並びに人々の防禦権を尊重して、裁判機関 *instances judiciaires* の良き運営およびとりわけ司法行政の継続

性を、民事および刑事において、保証するために、

－ 法院、裁判所およびその他の裁判機関の組織を適応させること。これには検察、その他の司法機関 *pouvoir judiciaire*、裁判所執行官 *huissiers de justice*、法律専門家 *experts judiciaires*、翻訳者、通訳、翻訳者兼通訳、公証人、裁判所代理人 *mandataires de justice* を含む。

－ 権能および手続きの組織を適応させること。これには法律により定められた期間を含む。

－ 予防拘禁の手続きおよび様式に関わる規定並びに刑罰およびその措置の執行手続きおよび様式に関わる規定を適応させること。

8° 危機の共通対処の枠内で欧州連合の機関によりなされた決定に従うため。

§ 2. 第1節のアレテは、有効な法律の規定を、憲法により法律に明らかに留保されている事項においても、廃止し、補足し、改正し、代替することができる。

第1節のアレテは、これらのアレテのいくつかの違反に適用される行政上、民事上および刑事上の制裁を定めることができる。

刑事上の制裁は、当該違反について、改正または代替された立法の規定を上回る刑罰を定めることができない。

刑事法典第1篇の規定、第7章と第85条を含む、はこれらのアレテにより導入された刑事上の制裁に適用される。

第6条 第5条、§ 1、1° のアレテは、法律または規則に基づき予め必要とされる意見を求めることなく、定められることができる。

コンセイユ・デタの意見を除き、第5条、§ 1、2° から8° の国王のアレテは、法律または規則に基づき必要とされる意見を予め求めることなく、定められることができる。必要な場合には、これらの意見は、法律または規則に基づき必要とされる期間より短縮された期間内に求められるこ

とができる。

第7条 本法により国王に認められた権限は、本法発効後3箇月で有効期間が満了する。

第5条、§ 1、1° から8° のアレテは、その発効から1年の期間内に法律により追認される。

第5条、§ 1、1° から8° のアレテは、第2項の期間内に追認されなかったとき、その効果を決して発生させなかったものと見なされる。

第8条 本法は、官報に登載された日に発効する。

本法を審署したので、国璽が押され、官報で公布されることを命じる。

2020年3月27日 ブリュッセルにて

署名フィリップ

以下、署名略